

麻生副総理 開会ご挨拶
G20 技術革新セミナー「デジタル時代の未来」

2019年6月8日
於:ヒルトン福岡シーホーク

皆様、私の地元である福岡へようこそ。ここ福岡は温暖な気候に恵まれ、食べ物も美味しく、またアジアへの近さから国際都市としても発達しています。フィンテック推進にも力を入れており、この地に皆様をお招き出来て嬉しく思います。

金融技術革新は、日本議長下での G20 財務トラックの優先議題の一つです。本セミナーでは、まず技術革新が金融システムをいかに変革しつつあるかを概観した後、更に、ブロックチェーンなどの分散型台帳技術(DLT)に焦点を当て、金融システムに与える影響について議論します。

また、IMF ラガルド専務理事に基調講演を頂くこととしており、金融技術革新に係る課題に関する同専務理事の深い知見を伺うことを楽しみにしています。

金融技術革新の機会とリスク

セッション 1 では、金融業界に加え、技術革新をリードするグローバル IT 企業からスピーカーを招き、技術革新が金融システムにもたらす機会とリスクについて議論を行います。

技術革新が金融セクターの利用者にもたらす可能性のある便益としては、例えば以下のようなものがあります。

- ① ビッグデータ・AI・機械学習の発展により、これまで富裕層や大企業に対してだけしか提供できなかったテーラーメイドの金融サービスが、より幅広い顧客に提供可能となる

- ② モバイルバンキングの普及により、現在、銀行口座へのアクセスを持たない層が安価な金融サービスを受けられるようになり、途上国における金融包摂に貢献する
- ③ クラウドサービスが、これまで巨額のシステム投資を要した金融業の装置産業としての側面を一変させ、金融業界への新規参入を容易にさせる効果や、既存金融機関による機動的な業務運営を可能とする効果がある
- ④ 分散型台帳技術が、直接顧客や市場参加者をつなぐネットワークを実現し、コスト削減や効率性向上をもたらす

こういった変化は、当然のことながら、機会だけではなくリスクや課題ももたらす可能性があります。例えば、データの利活用とプライバシー保護のバランスをどう図っていくのでしょうか。テクノロジーへの依存が高まる中で、サイバーセキュリティをいかに確保できるのでしょうか。また、機械学習が既存の先入観や偏見を助長し、新たなかたちの金融排除が生まれる可能性はないのでしょうか。

本日の議論が、皆様がこうした問いに対する答えを見つける一助となることを期待しております。

分散型金融システムにおけるマルチステークホルダー型ガバナンス

セッション2では、分散型台帳技術に焦点を当てています。ビル・ゲイツは1994年に「銀行の機能は必要だが、今ある銀行は必要なくなる」と発言しています。四半世紀が経過し、今のところ我々はまだ銀行を使っていますが、今後、分散型台帳技術の更なる普及により、銀行なしに銀行の機能が提供されることが可能となるかもしれません。

金融当局は従来、主に仲介金融機関に対する規制を通じて、金融安定性や利用者保護といった公益の実現に努めてきましたが、今述べたような分散型金融システムの下では、そうしたアプローチがとれなくなる可能性があります。こうした観点から、セッション2では、当局・学界・金融業界・技術者といった分野の専門家を招き、分散型金融システムにおけるマ

ルチステークホルダー型ガバナンスのあり方についてパネル討論を行うこととしています。

本セミナーは、G20 財務大臣・中銀総裁会合への有益なインプットにもなると考えており、活発で建設的な議論が行われることを期待しています。ご清聴ありがとうございました。

(以上)